

CASBEE[®] 新築[簡易版]

評価結果

使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版)2010年版 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.4)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	藤沢市 卸売市場 配達棟	階数	地上2F
建設地	神奈川県藤沢市稲荷520番地	構造	S造
用途地域	準工業地域、防火地域指定なし	平均居住人員	230 人
気候区分	地域区分	年間使用時間	2,400 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2012年7月 予定	評価の実施日	2011年8月22日
敷地面積	123,235 m ²	作成者	JFEエンジニアリング(株)
建築面積	14,847 m ²	確認日	
延床面積	25,001 m ²	確認者	

外観バース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.4

環境品質 Q

環境負荷 L

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

建設 修繕・更新・解体 運用 オンサイト オフサイト

建築物の取組み

上記+ 以外のオンサイト手法 84%

上記+ オフサイト手法 84%

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能

Q1 室内環境

Q3 室外環境(敷地内)

LR1 エネルギー

LR3 敷地外環境

LR2 資源・マテリアル

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.0

Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.3

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.5

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.5

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.5

LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.8

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.5

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項	
総合	その他
<ul style="list-style-type: none"> 既存施設の建替えなので、景觀に配慮しながらコンパクトな建築計画を行った。 既設で継続利用する建屋と新設との関係に配慮し、効率的な市場運営を行える施設を計画した。 	
Q1 室内環境 ・常温で使用する荷捌場は自然換気を主とし、有効に換気が出来るように窓やシャッターの配置に配慮した。 ・主として使用する執務空間等は外気負荷を抑えるため、換気全熱交換機を採用した。	Q2 サービス性能 ・設備関係について、日常の保守点検作業やメーター類の検針を効率的に行えるように、建屋内に設備配管スペースや盤を計画した。
LR1 エネルギー ・荷捌場における冷蔵、冷凍設備を効率よく運用するため、断熱材を中間層に入れた二重床とし、また壁や天井を断熱パネルを使用し設備効率に配慮した計画とした。 ・高効率の照明器具を選定をした。	LR2 資源・マテリアル ・特定化学物質を含まない建築材料を採用した。
	Q3 室外環境(敷地内) ・既存植栽の保全・再生に努める計画とした。 ・空調室外機を2階底上に設置し、換気の排気口を高い位置に設置するなど、人の通る場所や吸気口等に排気や排熱が及ばないように計画した。
	LR3 敷地外環境 ・高効率の照明器具を用いることにより、温暖化に配慮した。(運用時のCO ₂ 低減) ・適切な量の駐車スペースを敷地内に確保し、周辺地域に対する交通負荷の抑制を図った。 ・敷地中央に主建屋を計画し既存の緑地保全に努めた。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい